

最初の人間像：創世記と古事記

創世記 (La Bible 2015 より仮訳)

1章 [神による天と大地の創造]

24 神は言った、「大地 la terre よ、その種類に応じた生き物を産め。獣、家畜、野生動物がその種類に応じて産め。」そうだった。25 神はその全種類の野生の獣、全種類の動物、土地に棲む家畜全種類を造った。神はそれを見てよく出来たと思った。

26 神は言った、「われわれに似た姿 image にしたがって、人間を造ろう。そして人間が、海の魚、天(そら)の鳥、動物たち、大地に動く家畜すべてを支配するように！」

27 神は自身の像 image に似せて人間を創造した。

神の像に似せて神が人間を創造したのだ。

男 mâle と女 femelle を、神は創造したのだ。

28 神は二人を祝福し言った、「子孫を増やせ、どんどん増やせ、大地を子孫で満たし、海の魚や空の鳥、大地に動くすべての生き物を支配せよ！」

29 神は言った、「さあ、すべての大地に生え種を着ける草をお前たちに与える。種を持った果実を実らせるすべての木々を。それがお前たちの食べ物だ。30 大地にいるすべての獣、空の鳥、大地を動き回り、命の息を吐くすべてのものに熟した草を与えよう」

そうだった。

31 そして、神はすべてがそうだったのを見た。なかなかよく出来ていた。夜が来て、朝になった。6日目である。

2章 [神、土の塵から人間を造る]

1 天と地と、それを構成するすべての基本要素の創造の仕事が終った。

2 <神>は7日目に、なすべき仕事を終えた。

7日目に取り組んできた仕事から離れた。と

古事記より

ここに、天つ神諸々の命以って、伊邪那岐命、伊邪那美命の二柱の神に、この漂える國を修め理り、固め成せ、と詔りて、天の沼矛を賜ひて、言依せ賜ふ。故に、二柱の神、天浮橋に立ちて、その沼矛を指し下ろし以って画けば、鹽は許袁呂々々々に、画き鳴して、引き上ぐる時、その矛末より垂落たる鹽の累積りて成る嶋、これ淤能基呂嶋。

その嶋に天降り坐して、天之御柱を見立て、八尋殿を見立てり。ここに、その妹伊邪那美命に問いて曰く、汝の身は如何に成れるや、答へて曰く、吾が身は成り成りて成り合はざるところ一処ありと。爾伊邪那岐命詔ふに、我身者成り成りて余るところ一処あり。ゆえに、この吾が身の成り余れる処を以って、汝が身の成り合はざるところを刺塞ぎて、以って國土を生み成さん。生むこと如何、と。伊邪那美命、答へて曰く、然り善し。爾伊邪那岐命詔ふに、然者吾與汝この天之御柱を行き廻り逢ひて、美斗のまぐはひを為さん。これを期して、すなはち詔す、汝は右より廻り逢はん、我は左より廻り逢はん、と。約て廻り竟はる時、伊邪那美命、先に阿那邇夜志愛袁登古袁と言ふ。後から、伊邪那岐命、阿那邇夜志愛袁登賣袁と言ふ。各言ひ竟はりての後、その妹に告げるに、女人先に言ふは良からず、と。然雖も久美度邇興して生る子、水蛭子。この子は葦船に入れて流し去りぬ。次に生りしは、淡嶋。これまた子の例に入れず。

ここにおいて二柱の神、議りて云ふ、今吾所生之子不良、猶天神之御所に宣白ん。即ち共に参上し天神之命に請む。爾天神之命以って太占に卜ひて詔す、女先に言ふに因りて良からず、また還り降りて改めて言へ、と。故に爾して、反り降り、更に其の天之御柱を先の如く行き廻れり。…

3<神>はこの7日目を祝福し、聖別した。というのも、この日<神>はなすべき創造のすべての仕事が終わったからである。

4天と大地の誕生によって天と大地の創造が成し遂げられた日であったからである。<主なる神 LORD God, le SEIGNEUR Dieu>が地と天を造った日に、5 まだ大地には野の小さな木も、野の草の芽も生えていなかった。<主なる神>は、まだ雨を大地に降らせていなかったし、土地を耕す人間もいなかったからである。6しかし、大地から水が溢れ出し、地上の土のすべての上を濡らした。

7<主なる神>は、土の塵から人間を形造った。その鼻の穴に命の息を吹き込んだ。こうして、人間は生きる存在 être vivant となった。

8<主なる神>は、東の方にエデンの園に庭を造って、彼が象った人間をそこに置いた。

9<主なる神>は、見るからに心地よく、良い食べ物となるすべての木々を土から生えさせた。庭の真ん中には、また命の木と善と悪を知る木を立てた。

10 エデンから庭へ一本の河が流れ注いでいた。そこから河は四つに分かれた。

11 第一の河の名は、ピション。ハヴィラの全地域を巡っていた。そこは金が採れた。

12 そこで採れる金は良質で香り良いゴム樹脂や縞瑪瑙も採れた。

13 第二の河の名は、ギホンと言い、同様にエチオピアの全域を巡っていた。

14 第三の河の名はチグリスで、アッシリアの東へと流れていた。四番目の河がユーフラテスである。

15<主なる神>は、人間をエデンの園に連れて行き、庭の世話をさせ、守らせた。

16<主なる神>は、園のどの木になる実も食べていいと人間に指示した。

17 しかし、善と悪を知る木については、

その実を食べてはならぬ、それを食べた日には、汝は死ななければならないから、と言った。

18<主なる神>は言った、「人間が独りでいるのは良くない、彼に似つかわしい助っ人を造ってやりたい」19<主なる神>は、土から野の獣のすべてを造り、空を飛ぶ鳥すべてを造って、人間のところへ連れて行き、人間がこれらをどんなふうと呼ぶか、見てみようとした。

20人間が呼んだのは、すべて、その<生き物>たちのための呼び名だった。人間は、すべての生き物に名を付けた。人間はすべての獣、すべての空の鳥、すべての野の動物にそれぞれの名をつけて呼んだが、自分自身のために名前をつけなかったのも、彼といっしょにいてくれる助っ人を見つけることは出来そうになかった。21<主なる神>は、人間を眠らせ深い眠りに落ち込ませた。人間の肋骨の一部を取り出し、肉で塞いだ。22<主なる神>は人間から取り出した肋骨を女に変えて、男（人間）のところへ連れて行った。23男は叫んだ、

「これはわたしの骨の骨、そして肉の肉。

これを女と呼ぼう、なぜなら彼女が造られたのは男からだから」

24男もまた、父と母から離れ、女と結ばれ、女を妻とした。二人は一つの肉となったのである。

25二人は素っ裸であったが、男とその妻は、お互いに恥ずかしいと思わなかった。

3章 [神、人間をエデンの園から追放] 1

1さて、蛇は、<主なる神>が造ったすべての獣のうちでいちばん狡猾であった。蛇がその妻に言った、「ほんとうに、神は“庭の木のなんでも食べてはいけないよと言ったのかい？”

2女は蛇に答えて言った、「わたしたちは、庭の木々の果実を食べていいのよ。3でも、庭の真ん中にある木の実は、“あれは食べてはいけない、触ってもいけない、触ると死んでしまう”

と神は言ったわ」4蛇は女に言った、「いや、君たちは死にはしないさ。5君たちがそれを食べた日には、君たちの目が開け、神と同じようになり、善と悪を見分ける智慧を持つようになることを知っているからさ」

6女は、その木が美味しそうな実をつけているのを見た。見るからに、賢い振舞いが出来そうな素晴らしい果実のように誘っていた。彼女は実を一つ採った、そして食べた。彼女はそれを夫にも与えた。そして、彼も食べた。

7二人の目が開いた。そして自分たちが裸だということを知った。無花果の葉を縫い合わせ、腰布にした。

8そこへ、微風が吹く庭を散歩している<主なる神>の声が聞こえた。神がすぐ前に来たので、二人は、庭の木のあいだに隠れた。9神は男を呼んだ、そして言った、

「お前はどこにいるのだ？」10男は答えた、

「庭におられるあなたの声が聞こえましたが、わたしは裸なので怖れて隠れていました」

11「誰が、お前が裸だと教えたのか？」

「お前は、わたしが食べてはいけないと言っておいた木の実を食べたな」12男は答えた、「あなたがわたしのそばにいるようにして下さった女、彼女があの実をわたしに与えたのです。それで、わたしはそれを食べてしまいました」

13<主なる神>は女に言った、「お前はそこになにをしたのだ？」女は答えた、「蛇が、わたしを誑かしたのです。それで食べてしまいました」

14<主なる神>は蛇に向かって言った、「そんなことをしてしまった以上、もうお前は、野のすべての獣や動物のなかのいちばん呪われた者になるだろう。もうこれからは、一生毎日、お前は腹這って動くことしか出来ないし、塵しか口に出来ない。15お前と女の間、お前の子

孫と女の子孫の間には憎しみが続く。一族は、お前の頭を叩き砕こうとするし、お前は彼らの踵を噛み砕こうとし続ける。

16神は女に言った、「お前は子を妊む。それは大きな苦しみを伴う。これは子供を持つための痛みなのだ。お前は夫への欲望に駆られ、男はお前を支配するだろう」

17アダムには神はこう言った、「お前はお前の妻の声に従って、わたしが食べてはいけないと命じておいたあの実を食べたのだから、お前のせいで土は呪われた。お前は日々の食べ物を得るために、苦勞を味合わなくてはならないだろう。18土は棘と薊を増やし、お前は野の草を食べねばならないだろう。19お前は、土に帰るまで、一生顔に汗してパンを食べねばならないだろう。土の塵からお前は造られたのだから。そうなのだ、お前は塵だ。お前は塵へ帰らねばならないのだ。

20男は妻をエヴァと名付けた。これは<生きて在る者>という意味である。すべての生きて在る者の母という意味である。

21<主なる神>は、アダムとエヴァにチュニクを造って着させた。22<主なる神>は言った、「さあ、これからは、人間はなにが善でなにが悪かを知る智慧を持つことによってわれわれと同じような存在になった。その代わりに、人間は命の木に手を伸ばすことはないし、それを食べ、永遠に生き続けることもないだろう！」

23<主なる神>は人間をエデンの園から追放し、彼がそこから造られた土地を耕すようにさせた。人間を追い出して、エデンの園の東側に、天使ケルビムを置き、雷の炎の剣を持たせ、命の木へ至る道を見張らせた。